

南部地区福祉活動計画

計画の趣旨

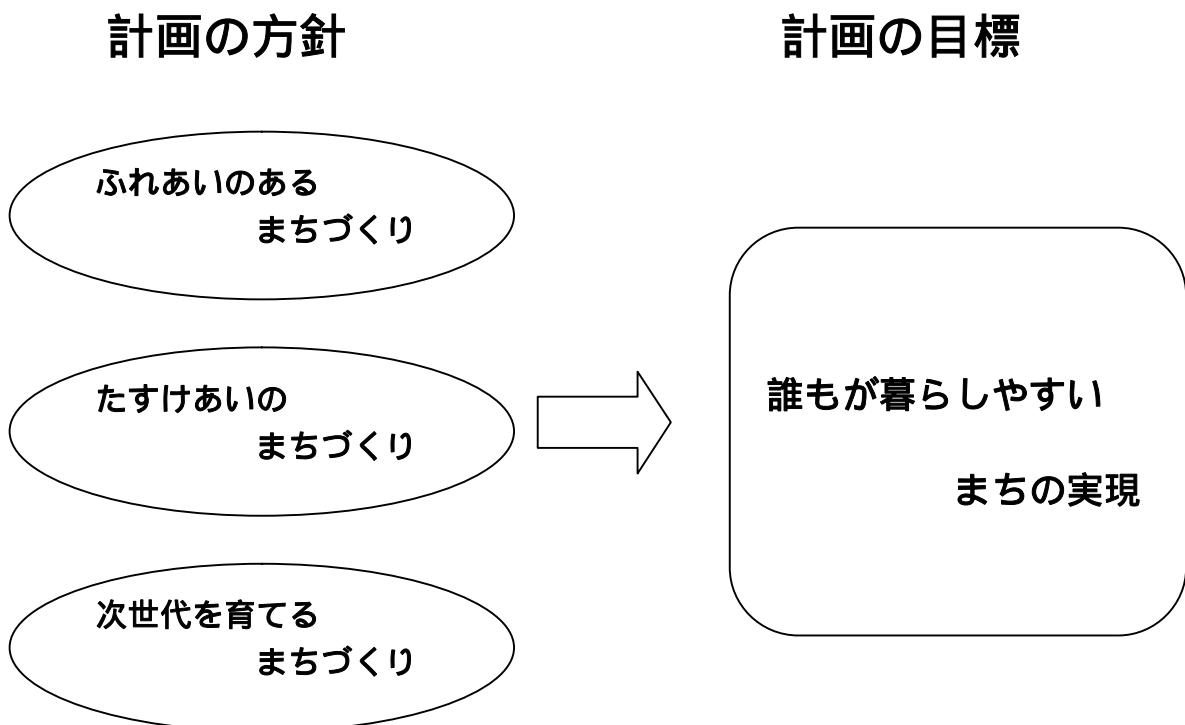
一人ひとりが安心して住みなれた地域で生活できるよう、福祉課題を中心とした生活課題について、地域住民と社会福祉協議会・行政・保健福祉関係者などの公的な機関が協働して、地域の特性を生かしながら解決を目指す方向性や将来像（こうなるといいな）を示したものです。

計画の目標

この計画が最終的に目指すものは、地域の人々がお互いに支えあい、助け合う仕組みづくりです。このことをもって地域における福祉課題を中心とした生活課題の解決を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめることを計画の目標とします。

計画の方針

計画の目標を実現するために、南部地区では皆さんのご意見を整理して3つの計画の方針とします。



聞き取り調査の実施

南部地区福祉活動計画を策定するにあたり、事前に地区内の状況を把握するため聞き取り調査を実施しました。

- ・実施時期 平成18年8月
- ・調査対象 南部地区社協会長、南部地区民生委員児童委員会長、主任児童委員、南部地区保健推進員会長、六供町ボランティア会長、南部地区老人クラブ会長、春日の里在宅介護支援センター、在宅介護支援センター・サンビュー、障害者福祉作業所保護者
- ・調査内容及び調査結果
別紙

懇談会の開催

南部地区福祉活動計画を策定するにあたり、事前説明会を開催しました。また、統計調査では見えにくい地区内の生活課題、福祉課題を把握・意見集約するためカードワークによる懇談会を開催し、計画策定の基礎としました。

- ・期　　日　　平成18年10月25日
- ・会　　場　　南町四丁目公民館
- ・参　加　者　　40人
- ・内　　容　　南部地区福祉活動計画策定事前説明会

- ・期　　日　　平成18年11月　9日
- ・会　　場　　六供町コミュニティクラブ
- ・参　加　者　　70人
- ・内　　容　　第1回 カードワークによる課題の表出化
- ・講　　師　　群馬県社会福祉協議会地域福祉グループ 中越信一 氏

- ・期　　日　　平成18年12月　3日
- ・会　　場　　六供町コミュニティクラブ
- ・参　加　者　　40人
- ・内　　容　　第2回 カードワークによる解決策の整理
- ・講　　師　　群馬県社会福祉協議会地域福祉グループ 中越信一 氏

作業委員会の開催

たくさん表出された課題の類型化や、地域住民の意見を整理・集約し、計画策定の骨子づくりの作業委員会を開催しました。

作業委員会のメンバーは12人で、各町民生委員児童委員の代表6人・保健推進員正副会長・南部地区社協事務局3人・市社協1人で構成しました。

- ・期　　日　　平成18年10月10日
- ・会　　場　　南町四丁目公民館
- ・内　　容　　地区内住民事前説明会について
第1回 懇談会について

- ・期　　日　　平成18年11月14日
- ・会　　場　　南町四丁目公民館
- ・内　　容　　第1回 懇談会の課題の整理・意見集約について
第2回 懇談会について

- ・期　　日　　平成18年12月12日
- ・会　　場　　南町四丁目公民館
- ・内　　容　　第2回 懇談会の課題の整理・意見集約について
計画骨子策定について

- ・期　　日　　平成19年 1月12日
- ・会　　場　　南町四丁目公民館
- ・内　　容　　南部地区福祉活動計画（案）について
(南部社協役員会)

計画の進行について

南部地区管内の住民の皆さんのが、日頃思う福祉課題を中心とした生活課題について、その解決に向けた方向性を示す計画ができました。

住民懇談会により統計調査では見えにくい「住民の生の声」を聞くことができ、少数意見であっても課題解決していく必要のある問題から、潜在的な課題を見つけることができました。

また、地域福祉への関心を高め参加を促す機会になったことと思います。

今後は、活動に取り組みやすい自治会単位で、具体的な推進体制を作りつつ、課題の解決に向けて行動していくこととします。

聞き取り調査結果

地域の良いところ

- ・協力体制がいい・社協に対する理解がある・民協と地区社協が一体となっている・心配ごとが少ない・団体ごとにまとまって地域に協力している・公園や河川敷があり住みやすい地域・都会と田舎のよさを持った住みやすい町・行事に参加協力できる・事業の推進に理解がある・地域行事に男性が多く関わり自治会を中心に若返ってる・サロン、ボランティア等の活動が活発・高齢者を中心とした活動が盛ん

地域の改善すべきところ

- ・福祉に対する積極的な取り組みが少ない・もう少し若い人との交流を図りたい・行事への子どもの参加が減っている・公的な公民館がない・町が大きすぎて中心が遠い特に六供町・マンション、アパートが多く個別訪問が困難・地域行事に若い世代に参加してもらいたい・街灯が少ない・区画整理等で高齢者の負担が多い

どんな町にしたいか

- ・明るく安全な生活ができる町・お互いにいたわりあえる町・明るく楽しい町・子どもたちが安心して遊べる町・お互いに支え合える町・近隣と意思の疎通が円滑な町・なんでも相談しあえる町・障害者が気兼ねなく参加できる町・高齢者が安心して快適に生活できる町・様々なことに取り組んでいける地域

課題

- ・地区によって生活レベルが違う・高齢者の一人暮らし、高齢者夫婦世帯が多い・市の中心が過疎化している・近くに商店が少なく車等がないと買い物が大変・サロン等に出てくる人が決まっている・昔のような地域の固いつながりが無くなっている・個人情報保護により信頼関係を築くのに支障がある・協働社会意識の希薄・高齢者にとってスーパーが近くにならため買い物に不便・交通の便が悪い・新しく地域に入ってきた人の受け入れ

必要な取り組み

- ・昔の隣組のようなもの・普段出ない人に対してもうきっかけ作り・地域の各団体の役員間の会議・自治会が先頭になった取り組み・定例会に社協職員がもっと顔を出して欲しい・各役員の希望を聞き入れてもらう機会・交流できる行

事・小・中学生が参加できるような行事の取り組み・手つくりの生活圏を作る・住民の相互理解を深める集会所の設置・イベントの開催・仲間つくりの推進・マイバスを六供町まで延長・高齢者も若い世代も関わりあえる活動をしていく

社協への期待

・多くの人への幅広い情報提供・地域と密着した事業の企画・若年層への支援、働きかけ・障害者の運動会等に施設通所者だけでなくたくさんの人が参加できるような取り組み・年齢に関係なくみんなで協力し合える活動の支援

()・・・社協と関係が薄いもの

南部地区福祉活動計画の体系

